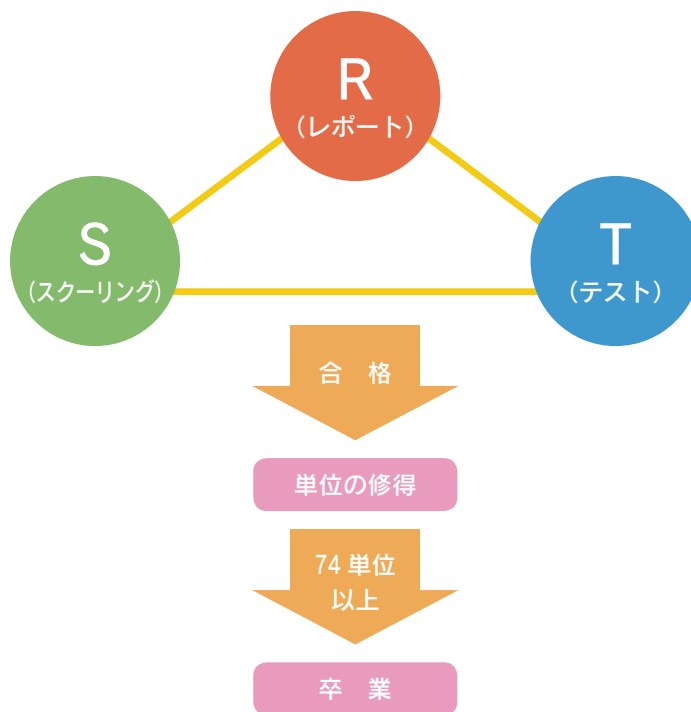


4 通信制課程（通信制高校）で学ぶ

自学自習が学習の基本の課程です。

毎日登校して授業を受けるわけではなく、学習書を使用して各教科を学びレポートを提出します。仕事やその他の事情で毎日通学することができない人のために設けられています。

修業年限は3年以上で、年齢・経験・学習動機・職業などの異なる生徒が学んでいます。卒業するためには、74単位以上の単位修得のほか、学校によっては特別活動への参加が必要となります。また、単位修得の3要件は、①レポート（学習課題）提出・合格、②スクーリング（面接指導）出席、③テスト（単位認定試験）合格です。



通信制には全日制や定時制と違った「学び方」があります。スクーリングやレポートで卒業を目指すのが一番の違いです。また、単位制なので他の高校を中途退学した人でも、編入学後、前籍校で修得した単位等を活かせる場合があります。

学校にもよりますが、行事や特別活動への参加も卒業の条件です。また、2学期制（前期と後期）の通信制高校では、秋入学・秋卒業もあります。

今までの高校のスタイルになじめなかった人も、新たな環境で卒業を目指してみませんか？



通信制高校教諭
Oさん

対
談

で学ぶ
全日制課程（全日制高校）

で学ぶ
定時制課程（定時制・フレックス高校）

で学ぶ
通信制課程（通信制高校）

試験合格を目指して学ぶ
高等学校卒業程度認定

資
料

【事例 10】

● 自分のペースで学べる、通信制高校を選択して良かった。

小さい頃から大勢で一緒に過ごすことに馴染めず、友だちと話をするのも苦手でした。だから小中学校時代は不登校となり、勉強も分からなくなっていました。そんな私が、中学3年の担任の先生の勧めで進学した高校は通信制高校でした。

入学後、両親と「学習の手引き」を見ながら受講科目を選択して申し込みました。必修科目はあるものの、好きな科目を選べたので新鮮な気持ちになりました。しかし、いざレポート作成という段階になると、中学校まで勉強をほとんどしていなかったこともあり、全く取り組むことができませんでした。しばらくすると、高校の先生からレポートの進捗具合について電話がありました。やる気が出ないと正直に答えたところ、「学校に来てみませんか？気軽に寄ってみてね」と優しく声を掛けてもらいました。

学校では、レポート作成の仕方だけではなく、学習の進め方や学校のサポートについても丁寧に説明してもらいました。レポートを一つ出すと教科担当の先生が添削をしてくれて、合格すると次の課題に取り組めること、不合格でもやり直しができること、課題内容で分からない点があれば学校の自習室で教えてもらえること、月2回のスクーリングがレポート作成に役立つということが分かりました。そして、前期と後期に行われる科目試験に合格すれば単位を修得できます。

入学当初に「自己管理・自己責任による自学自習が基本」と言われたことが、やっと理解できました。自分のペースで計画的に学習できる通信制高校を選択して良かったと思っています。

<Pさん(男) 18歳 高校生>

【事例 11】

● 修得単位を活かして通信制高校に編入学、「高卒」を目指しています。

以前は全日制高校に通っていましたが、友人関係に悩み、不登校を経て高校3年の時に退学しました。しばらくは、アルバイトに明け暮れる日々が続いていましたが、かつての同級生から高校卒業後の進学や就職の話を聞いているうちに、自分だけが取り残されているような気分になり、急にむなしくなりました。「やっぱり高校を卒業したい」と元の高校の先生に相談したところ、通信制高校への編入学を勧めてもらいました。通信制高校への入学が決まってから分かったことがあります。元の高校で修得した単位が通信制高校でも活かせることです。

私の場合、卒業に必要な単位数のうち4分の3以上を修得しているものとして認められました。卒業まで少し時間がかかりますが、アルバイトを続けながら「高卒」を目指す気持ちが湧いてきました。

<Qさん(女) 19歳 高校生>



「私立通信制高校・サポート校も選択肢のひとつ」

現在、通信制高校で学ぶ生徒は全国で19万人を超え、年々増加しています。その中で、14万人以上の生徒は、私立通信制高校に在籍して学んでいます。

私立通信制高校での学びは、自宅学習だけではなく、全日制高校のように毎日通学することができる「通学型スタイル」をとっている学校や、自宅にしながら「インターネットを活用して学ぶスタイル」の学校等、通信制課程の特長を最大限に活用し、自分の学び方・やりたいことに合わせた形で、勉強をすすめることができます。

私立通信制高校の中には、学習拠点としてサテライト施設を持ち、「学習支援」や「進路支援」、「日常生活のリズムをつくる支援」といったサポートを特徴としている学校もあります。

また、私立通信制高校では、転入学・編入学の受け入れを柔軟に対応している学校も多くあります。もちろん私立高校ですので、公立高校に比べると学費はかかりますが、「高等学校等就学支援金」なども受給することができます。

私たちは、そうした若者たちに多様な学び方を伝えるとともに、群馬県の教育振興に寄与するために群馬県私立通信制高校等連絡協議会を設置しました。

自分に合った学びを見つけるために、実際に学校を訪れて説明を受けることをお勧めします。

また、協議会ホームページ (<https://gunmatuushin.wixsite.com/home>) もご覧ください。



私立通信制高校教諭
Rさん

私立通信制高校では、留年という考え方はないので、その年度で単位を修得できなくても翌年に持ち越して勉強できます。また、通学スタイルを選択できますので自分に合ったスタイルを選択してください。

<通学スタイル>

- ・全日型 週5日登校
- ・自由選択型 週1～5日登校
- ・自宅学習型 年間4日～20日登校

週5日登校の時間割(例)

	月	火	水	木	金
9:40～10:20	国語	英語	数学	国語	情報
10:30～11:10	数学	国語	理科	英語	英語
11:20～12:00	英語	数学	公民	理科	数学
12:50～13:30	(個別指導)	理科	総合	(個別指導)	レポート作成
13:40～14:20	(部活)	(進路)	英語	(部活)	公民

週2日登校の時間割(例)

	月	火	水	木	金
12:30～13:10	国語	-	-	英語	-
13:20～14:00	公民	-	-	理科	-
14:10～14:50	情報	-	-	レポート作成	-
15:00～15:40	数学	-	-	総合	-

【事例 12】

● 全日制高校から転学。周りの人に支えられ、大学に進学しました。

中学校の部活動では県大会で活躍、文武両道の高校に進学しました。両親は有名大学への進学を望んでいたため、ちょっと背伸びをして学校を選びました。

結果、両立が続かないどころか勉強についていけなくなり、うつ病になってしまいました。

仕方なく、私立通信制高校に転学することにしました。

ところが、有名大学への進学を希望する両親への反発から、私は暴れ、部屋にひきこもるようになりました。

その後、心療内科のあるいくつかの病院に連れて行かれました。すると、お医者さんが母親に向かって「本人の意思を理解していますか？」と尋ねてくれました。そのことをきっかけに両親は大学進学のことをうさく言わなくなりました。

入学した通信制高校では、時折、気持ちが不安定になることもありましたが、サークル活動やボランティア活動に積極的に参加するように心掛けました。

また、将来どのような仕事に就けばよいのか、自分がどのような仕事に向いているのか分からなかったため、高校の先生に職場見学をお願いしました。見学先は福祉関係の職場でしたが、担当の方から、いろいろな役割や仕事があることを教えていただきました。

現在は、大学に進学し福祉の勉強に励んでいます。つらいこともたくさんあったけど、まわりの方々に支えられ、自分を取り戻すことができました。

< Sさん(女) 大学2年生 >



【事例 13】

● 児童養護施設で生活、不登校、転学・卒業後に就職しました。

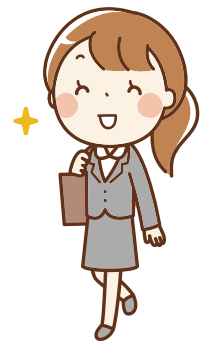
小学生の頃、父親からのDVで児童相談所に保護され、その後、両親が離婚して中学から児童養護施設(※1)で生活するようになりました。

スポーツが好きだったので部活動が盛んな高校を選びました。毎日、施設から遠くの学校まで通っていましたが、2年生の秋になってから、張り詰めていた気持ちがぷつんと切れてしまいました。

理由も分からず身体に力が入らなくなり、学校にすら行けなくなってしまいました。このまま退学すると施設を出て働かなくてはなりません。でもどうしたら良いか分からないで悩んでいました。

そんな時、児童養護施設の人が私立通信制高校に見学に連れて行ってくれました。ここであれば転学したいなと思いましたが、学費が高くて通い続けられるか心配でした。

すると通信制高校の先生が修学支援制度(P20参照)について調べてくれ、学費の



一部については、公的支援を受けられるようになりました。

また、学費を稼ぐために始めたアルバイト先の社長さんが保証人となって、その会社のアパートに入ることができました。

今は、高校を卒業して正式にその会社に就職して働いています。

学校の先生が転学のために動いてくれたこと、そして大人に見離されなかったことが、今の自分につながっているのだと思っています。

< Tさん(女) 会社員 >

※1 保護者のない子ども、虐待されている子どもなどを養護し、自立の援助などを行う児童福祉施設

【事例 14】

● 親身に寄り添ってくれた先生方とともに、自立を目指して。

息子は、自閉症スペクトラムと診断され、中学校3年間は情緒学級に在籍していました。言葉を発することが少ないだけではなく、反応が非常に遅く、こちらが何かを尋ねても30秒ほど経ってから返事をするような状態でした。

親としては、特別支援学校高等部を勧めていましたが、息子の「全日制高校で学びたい。」という意思を尊重し、心配ではありましたが私立通信制高校の全日型コースに進学しました。

高校入学当初は、先生方との意思疎通が難しく、他の学校への転学を考えたこともありました。

しかし、高校の先生方に親身になって寄り添っていただいた結果、息子も安心して先生方に接することができるようになりました。

おかげさまで、息子は「自分のことは自分でできる」段階まで成長させていただきました。

このたび、役所から精神保健福祉手帳（※2）を取得し、高校に通いながら就労に向けて努力しているところです。

< Uさん(男) 高校3年生の母 >

※2 一定の精神障害の状態にあることを認定して交付することにより、手帳の交付を受けた者に対し、各方面の協力により各種の支援策が講じられることを促進し、精神障害者の社会復帰の促進と自立と社会参加の促進を図ることを目的としたもの。

全日制高校・定時制高校・通信制高校、どの教育課程を卒業しても、同じ「高校卒業」です。どの高校を卒業したのかではなく、その時期に何をやってきたのかということの評価してもらえよう、まずは周囲の大人たちの認識が変わることを願っています。



私立通信制高校教諭
Vさん